

心の概念 ーチャーマーズを手がかりにー

板垣 香緒

昔からロボットが心を持つということがどういうことかに興味があり、人間の心とは一体どんなものであるのかを明らかにしたいと考えていた。哲学には心の哲学と呼ばれる領域があり、心はどのような存在であるかを知ることで心の概念を捉える手がかりになるのではないかと考えた。その中で、心を物理的存在であるとみなす唯物論が主流となっていることを知ったが、果たして本当に人間の心を完全に物理的であるとみなすことはできるのかということに疑問を持った。調べるうち、オーストラリアの哲学者であるチャーマーズが意識というものを主軸に、心の哲学について唯物論の先にある自然主義的二元論という新しい主張をしていることを知った。そこで、チャーマーズの議論を手がかりに心の概念を捉えなおすことを目的として考察を試みた。

まずは心の哲学とそれにまつわる主問題である心身問題の議論をまとめた。その上で、チャーマーズの意識に関する議論を概観した。チャーマーズは意識が論理的に付随しないこと、それ故に唯物論が誤りであること、そこから特性二元論と呼ばれる自然主義的二元論が導き出されることを明らかにした。更に、チャーマーズの意識論に対する先行研究を取り上げて、唯物論者の批判がチャーマーズの唯物論論駁に集中していることを明らかにした。考察では、そういったチャーマーズの唯物論論駁に対する批判は本質的ではないことを論じた。そのために、チャーマーズはあくまで狭い意味での還元主義的唯物論が誤りであるとしようとしただけで広い意味での唯物論は論駁しようとしていないこと、そして彼の議論の本質は意識について唯物論だけでは拾いきれないような更なる事実が存在している点にあると指摘した。また、チャーマーズ側から予想される反応を示し、心を日常的な概念として捉えることができる点で自然主義的二元論を擁護した。その上で、心の本質はクオリアをもつこと、すなわち主観的に物事を感じることであることから、心は人間の感性を支えるものであるという結論を導き出した。

(指導教員 横山幹子)